

エビネの栽培について



綾歌普及センター
井口里香

可憐で上品な花を持つエビネは、比較的丈夫で育てやすいため、愛好家も多いことと思います。春咲きエビネの植え替えは花が終わった直後が適期です。

●エビネの種類

〈春咲きエビネ〉

四月中旬～五月に咲くエビネで、もともと一般的に知られている種類にシエビネがあります。その他キエビネ、キリシマエビネ、ニオイエビネ、サルメンエビネ、タカネなどがあります。

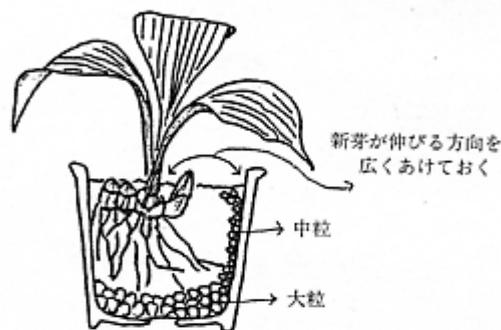
〈夏咲きエビネ〉

六、七、八月を中心に咲くエビネでナツエビネ、ツルラン、オナガエビネ、リュウキュウエビネ、ヒロハノカラシなどを指しています。

●植え替えと殖やし方

鉢植えの場合、新芽が伸びる方

エビネの植え方

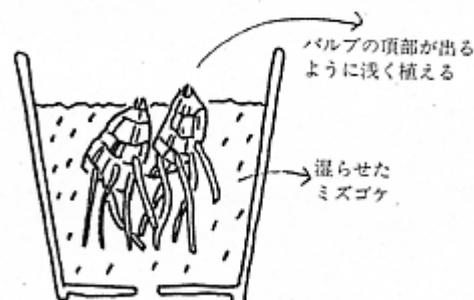


新芽が伸びる方向を
広くあけておく

→ 中粒

→ 大粒

バルブ吹き



バルブの頂部が出る
ように浅く植える

→ 湿らせた
ミズゴケ

※日陰で管理し、乾かさない

向に余地がなくなったら植え替えをしなければなりません。通常、三年に一回が目安です。
植え替え適期は春咲き種は開花直後の五月中下旬と九月中旬～十月下旬と三月上旬、夏咲き種では生育開始直前の四月～五月上旬と開花後の九月です。

株分けは新芽に古いバルブを二～三個つけて植えつけます。バルブを分けるときは、消毒したハサミやナイフを使うか、手で折り曲げるようにして切り離します。
用土は、水はけ、水もちの良い

～エビネは種類によって暑がり、寒がりの性質があります～

性質	種類		注意点
	春咲き	夏咲き	
寒さに耐える	強い	エビネ、キエビネ、タカネ、ヒゼン、ヒゴ、サツマ、インツテ	無加温でよいが、霜よけをして凍らせない
	少し寒がる	キリシマエビネ、ニオイエビネ、トクノシマエビネ、カツウダケエビネ、コオズ	無加温では株が弱るので、フレームか低温室に入れて最低温度を3～5℃に保つ
	暑がる	サルメンエビネ、キノエビネ、キンセイラン	ナツエビネ
寒さに弱い	スズリエビネ	ツルラン、オナガエビネ、ヒロハノカラシ、リュウキュウエビネ	無加温では枯れるので、温室で加温フレームで最低温度を5～8℃に保つ

用土で、配合例はつぎのとおりです。

- 鉢用土
- 四・五～六号の中深鉢
- 日向ボラ土……………六
- (鹿沼土でも可)
- 赤玉土……………三
- 腐葉土……………一

植え方は、鉢底に防虫ネットを敷き三分の一に大粒の用土を入れ、根を広げて、バルブが隠れる程度に浅く、中粒以下の用土で竹べら等で突きながら植え込んでいきま

す。植え替え後はたっぷり水やりし、みじんを洗い流します。風の当たらない日陰で養成させます。へバルブふかし、古いバルブを一、二個に分けて株を殖やすことができません。湿らせたミズゴケにバルブを埋め込み、日陰に置いて乾かさなないように管理します。二、三年後には花が見れます。

●環境条件

庭植えする場合、樹木の下など、朝日以外の直射日光が避けられる半日陰で、強風（特に冬の寒風）の当たらない、湿り気のある場所を選びます。鉢植えの場合も同様の環境条件にしますが、夏は棚又は台の上に、冬は地面におろした方が良いでしょう。

●水やり

鉢植えの場合、春秋は一、二日に一回、夏は毎朝夕、冬は三、七日おきにたっぷり与えます。ただ

し、用土や鉢の種類により乾き具合が違うので表土が乾いたらやるようにします。

●肥料

油粕と骨粉の等量混合の置肥二、三個を花後と九月上中旬に、ハイポネックスなどの液体肥料（五・一〇・五）の一〇〇〇倍液を新芽が伸びだすときから秋まで月二、三回程度与えます。

●病虫害防除

開花中はアブラムシがつきやすく、ウイルス病の感染が心配されます。エヒネはウイルスに感染しやすく、感染すると葉に緑色の濃淡がかすり状に入り、症状が進むと花にも斑点が現れ、奇形花になり、観賞価値がなくなります。一度感染すると治すことかできないため、発病した株は思い切って処分しましょう。また、予防のために、株分け時には必ず消毒した器具を用い、古い鉢や用土は使わないうようにした方が安心です。また、アブラムシ、ナメクジ、カイガラムシ、ハダニの防除に努めましょう。

今が見ごろ

旬の花

河江 正明

藤は日本特産の植物で、古くから親しまれ、絵や着物の柄に、また多くの家紋にも取り入れられてきましたし、藤色といえは、紫色の代名詞にも使われるほど身近な存在です。

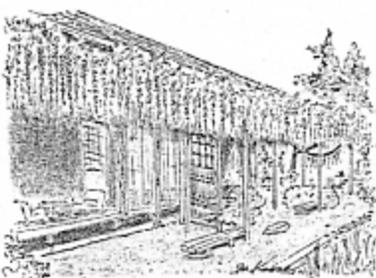
花言葉は、「あなたを歓迎します」。どうやら、花言葉の好きな欧米の人たちは、藤の花に日本的なものを感じるのでしょうか。

そういえば、「藤娘」など、私達が見ても、日本だなあ・と思うほどですから。

ところで、身近に見られる藤には、二種類あって、それぞれに幾つかの品種が親しまれています。

花穂が長く、藤棚や鉢植えにされているのは「ノダフジ」。むかし大阪の野田に名所があって名付けられたものようです。蔓が右巻になっています。

藤



いっぽう、山野にみられる「ヤマフジ」は、花穂は短いのですがボリュームがあり、園芸品種はカピタン（花美短）とも呼ばれ、蔓は左巻になります。さて、頃は初夏。

長い花穂を垂れた藤棚の下で、お茶など一服いただきますか。近くでは岩田神社（高松市飯田町）の藤棚が有名ですが、

はたまた、初夏の山を覆うように咲いている山藤を見ながら、缶ビールの一本もいただきますか。

山藤や短き房の花ざかり 子規